



「ふくよかなチエロの響きがソナス・ファベール／ストラディヴァリ・オマージュから流れてきた時、私は椅子から身を乗り出さずにはいられなかった。その旋律を耳だけではなく、五感で、自分のすべての感覚を研ぎ澄まして受け止めねばならない」と、うるさい衝動に駆られたからだ。

「エルガー・『シェンブルト奏曲』／ナタリー・クライン」。クラインの指先から紡ぎ出されるそのメロディーは、官能的で、哀愁を帯び、胸に沁み、哀愁を抱く悲しく、それでいて眩しい煌めきを放つ。その再生音は、ストラディヴァリ・オマージュだからこそ再現なのか。必ずしもそれだけではないことを、私は十分にわかつていた。

ストラディヴァリ・オマージュが唯一無二の素晴らしさスピーカーであることはもちろん認識している。しかし、その名機からここまでスケール感豊かな響きを引き出しているのは、ソウリューションのセパレートアンプを抜きには語れない。

# ベネチア のもの

On X

## (ソウリューションがもたらす エモーショナルな感嘆！)

エルガーのチェロ協奏曲は、英國生まれのJJの作曲家の代表曲で、ジャクリーン・ブレッソン、バルビローリ指揮の65年の演奏が今や伝説としても定番中の定番。しかし、JJでのクラインの演奏は、最新録音とともに相まって、明晰かつ重厚で濃密な彩りをイメージさせる。第楽章の駆け上がるようなメロディーラインは美にダイナミックだし、第三楽章では慈しむよつたムードを醸し出しながらも、決して情緒的に流されない毅然とした力強さを感じる演奏だ。それでいて第四楽章は、優しく包み込むよつた母性を思われる。いま居る部屋の空気が、音楽がもたらしてくれた穏やかで満ち溢れるようである。

私は再生音樂から「れほとの包み力を感じとつたことはない」。まはロ、目を瞑つて音樂に身体を預ける心地よさを堪能している。心は品ぶているが、温かい充足感でゆいぐりと満たされていくのがわかる。

瞑想的なムードと、たっぷりとした哀愁を含んだ部分とが巧みに織り込まれたこの楽曲を、ナタリー・クラインはひじょうに丁寧に、なおかつ表情豊かに演奏している。エルガーならではのゆるやかな緩急を深く彌り下げ、展開は実にドラマティックだ。

おそらくクラインは、自分の中に湧き出る感情の起伏を指先や腕だけでなく全身で表現しているのだと想つが、ソウリューションは伝送された電気信号というエレメントの中から、彼女の意志や



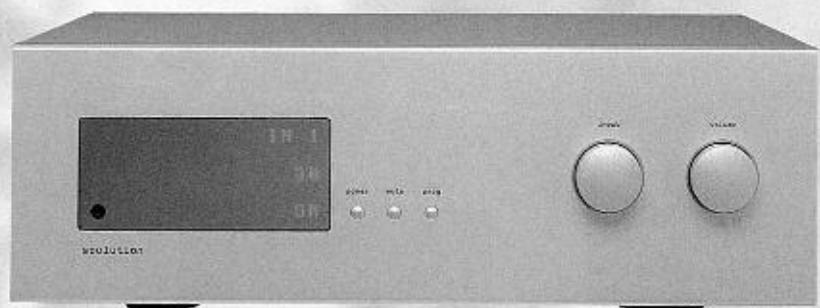
気迫さえも掬い出している。

ストラディヴァリ・オマージュが、かつて経験したことのないような肉厚で雄大な「コンチルト」を奏でているのは、おそらくはこれまでの幾多のアンプでは掬い出すことができなかつたそうしたスピリチュアルな要素が、ソウリューションによって初めてストラディヴァリ・オマージュに注ぎ込まれたことによるものなのだろう。それが私の中にエモーションナルな感嘆をもたらしたに違いない。クライインの内に宿る炎を引き出したソウリューションとは、いったい何者なのだ!

## 体温や血流までも 感じさせる表現力

アナログレコード演奏も自分のオーディオ生活の中において重要な位置を占めるだけに、ソウリューションのブリアンブ720の内蔵フォノイコライザーアンプの完成度がひじょうに気になっていたのだが、それはまったく以て舌の打ち所のない素晴らしいものとわかった。

米クラシック・レコードがリマスタリングを手掛け、2000年の重量盤でリリースしたサラ・マクラフランの「アフターグロウ」は、大好きなウォーカルアルバムだ。繊細かつ透明で美しい声の持ち主であるサラの歌唱を、ソウリューションは実にスマートに表わした。サラの歌声にはある種の癒しの作用があるとよく言われるが、まさしくそれが再認識された演奏だ。聴く度に味わい深くなるアルバムであると常々感じていたが、ソウリューションで聴いて改めて感じ入ったのは、サラの声に内在する郷愁感である。



Soulution  
Preamplifier

720 (フォノイコライザーアンプ内蔵)

721 (Lineアンプ)

- 入力インピーダンス: 2kΩ(バランス)、47kΩ(アンバランス)、1kΩ/100Ω(フォノMC)
- アナログ入力: バランス2系統、アンバランス3系統 ●アナログ出力: バランス1系統、アンバランス1系統
- 寸法/重量: W480×H167×D450mm/30kg



Soulution  
Power Amplifier

710

- 出力: 120W+120W(8Ω)、240W+240W(4Ω)、480W+480W(2Ω)
- インピーダンス: 4.7kΩ(バランス)、10kΩ(アンバランス)
- 寸法/重量: W480×H280×D535mm/80kg
- 備考: バランス入力 HOT-2番ピン

2004年リリースのこのアルバムは、前作から7年間に結婚、出産そして最愛の母の死という人生最大の出来事を立て続けに経験して生まれた、おそらく彼女の死生観が色濃く反映された作品といえる。そうした背景が少なからず影響しているのだろうことは、母としての強さ、人間としての孤独感を感じさせる詞やメロディーからもわかる。彼女の人生が刻み込まれているかのように感じられるのである。

そうした質感を解きほぐすように再生するソウリューションの表現は、単にアナログ特有の温かみとかまろやかさといった次元で片付けられるものではない。むしろフィジカルな体温や生々しい血流を感じさせるものだ。ソウリューション720に内蔵されているフォノイコライザーアンプは、決して小手先の技術でつくられたのではない。そこまでの表現力を意図してのものなのだ。

720の音量インピーダンスの設定は、背面パネ